

新企画

あの質問は どうなったの？

「古紙回収業者」への助成は 廃止すべき

古紙回収事業者（町内会、子ども会等で資源回収している古紙類を引き取る業者）への助成金は廃止すべきでは。

[吉住議員・平成18年12月定例会での質問]

19年4月1日より廃止

平成18年4月より厚生委員会にて継続的に審議をし、古布については1kg3円の範囲内で継続するが、新聞・ダンボール・雑紙・チラシ等の古紙については助成金廃止となっている。



集団回収のようす

高齢者医療

医療差別はやめよ

答弁：制度改革は必要です

末藤 後期高齢者医療制度実施は中止せよ。この制度に対する高齢者の怒りには、負担増への怒りだけではありません。75歳



末藤 省三 議員

という年齢を重ねただけで差別される。国保や健保から追い出されて別枠の制度に囲い込まれ、過酷な保険料徴収が行われ、診療報酬も別建てとなり、保険医療が制限されるなど、人間としての存在が否定されるような扱いを受けることへの深い憤りなのである。

この制度は75歳以上の人だけを切り離し、死ぬまで保険料と患者負担を取るといふ制度です。年金が月1万5000円の人からも保険料を年金から天引きする強制徴収は、高齢者の暮らしを直接脅かすものですが、町長 医療制度改革をしなければ将来の高齢者の医療制度が破綻してしまふ、高齢者の中には問題が発生してきたと思う。



町有地



西川 蓉子 議員

格差の是正

下水道料金の統一を

答弁 次年度を目標とする

西川 一般住民と桜丘団地の料金の格差はなぜか50㎡で46%、60㎡で50%副町長 インシヤルコスト(初期経費、施設や設備設置などにかかる経費)が流域下水と桜丘下水との差になった。

西川 34年間が経過し老朽化した桜丘団地処理場の現状は、町長 大きな機能障害が起きなければいいがという認識をしている。西川 接続体制が整っていることから、接続し料金の格差を是正すべき。

町有地の無断使用は答弁 解決していく

西川 町有地の無断使用

は改善されているのか。経営企画課長 畑として使用されていた2件が改善解決に進んでいる。西川 管理上の問題と今後の管理、指導は。経営企画課長 現状を黙認していた所もあった。返還を原則に早急に解決できるように相手と協議していく。

分権と協働

目指す職員像は

答弁：やる気ある職員です



丸山 真智子 議員

丸山 分権時代に県自治労が「現場へ住民とともに」と協働を進める出前主義への転換を図る運動理念を打出した。所見は、町長 自治体を取巻く環境が変貌する中、今まで

と同じではいけない。住民と行政の協働に関する指針では、職員の地域担当制度の導入を検討するとなっている。職員の地域へのかかわりは積極的に行っていない。なければならない。携帯電話の安全指導は答弁 学校で指導を実施丸山 小・中学生の携帯電話の利用実態は、有害情報から子どもを

守るため、どのように対応しているのか。学校教育課長 所持率は小六で30%、中三で65%。教師に携帯電話の安全な使い方について研修を実施し、学校で情報モラルの指導を行っている。その他の質問 堅坑槽の活用について 高齢者虐待防止について 傾聴ボランティアの養成



新人職員研修

平成20年4月から
後期高齢者医療制度が
はじまります。



4月からは、新しい
保険証が必要です。

福岡県後期高齢者医療広域連合